

抄 録

理想的結婚相談所の構成要素について

津 島 忠

現代人の結婚への悩みとして、①結婚相手の選択範囲が狭く、チャンスに乏しいこと、②わが国で、尙大多数をしめるお見合結婚の場合には、与えられる判断材料が極めて乏しいこと、及び③経済的な悩みの三つがあげられるであろう。第③の悩みを暫くおくとして、①、②の問題は、現代心理学、更には広く科学的なアイデアと技術を活用することによって、大きく解決される可能性に富むものと考えられる。

それは半年前第64回関西心理学会で発表した「オートメーション形式を含む友人形成」と同様の方法で可能である。但しわが国の社会文化的風土性は、友人形成よりも結婚の方を遙かに複雑且つ困難にするものがあるが、その具体的な解決策について述べた。

(関西心理学会 1959年11月1日)

キャテル不安尺度の日本標準化版の作成

第一報告 不安尺度内因子構造

園原太郎, 津島 忠, 辻岡美延, 対馬ゆき子

キャテルの Anxiety Scale (40項目) を翻訳し、点二系列相関により項目分析を行い、逆相関となって現れた一項目を16P-F Test より補充した。これを大学生300名に施行し、40×40のテトラコリック相関行列を求め、セントロイド法で因子分析した。一応6因子を求め、single plane method で軸廻転したところ、キャテルの一次因子 Q₃, C, L, O, Q₄ に近似的な因子が見られるが、キャテルの一次因子分析の過程とは異なるため、両者の因子を直接的に比較することは、現在のところ、疑問の余地が残されていることが分った。尙この研究の第二報告は日本教育心理学会(1960, 10)で発表、完成した際には、東京心理株式会社より発刊の予定である。

(関西心理学会 1959年11月1日)

青少年生活欲求調査

寺 本 喜 一

京都市内在住の18-15才該当の青少年の生活欲求と社会資源との関係を1,552名の標本調査によって行ったものの報告書である。菊版二百十頁、騰写タイプ印刷。公立高校生、私立高校生、定時制、通勤者、住込者、家業者、無業者について、16学校、12地域に般って、九ヶ月

の日時を使って行ったもので、京都市の青少年問題に関心を持つ人々の基礎資料となる。

(京都市青少年問題協議会報告 1960年5月)

昭和34年度福祉児童学科

専攻学生研究題目

社会福祉学講座

非行少年と家庭について(共同研究)	(4人)
1. 非行少年の家庭の構造とその機能について	大屋 直子
2. 非行少年の幼児・児童期における家庭構造と家庭機能との関連	鳥貫 純子
3. 非行少年と家族の心理的関係	名倉 綾子
4. 家庭意識調査から	尾中 悠子
少年警察について	宮地 隆夫
両親の離婚に対する子の考え方を中心とする事例研究	埴田 和子
京都の少年非行地域に関する一考察	小八木 洋子
グループワークについて	館 正寿
京都市茨地区における母子世帯内職実態調査	松村 和子
青少年欲求調査	山田 育徳
低所得階層対策の現状(共同研究)	(2人)
	倉光 悦子
	中川 澄子
離婚の潜在的誘因の一考察	上生 敦子
京都市における長期欠席児童	村田 薫子

児童学講座

養護学級児の絵画とそのパーソナリティー	秋山 陽子
	上島千津子
	陸内 秀人
	多田 淳子
	伴野和佳子
環境とパーソナリティー	木下 麗子

公衆衛生学講座

夏季飲食物の細菌学的所見(共同研究)	安藤 純子
	木下 信彦
	左近 一夫
	中川 二美
	山口 達也